



# 「国際照葉樹林サミット」大会宣言

2011年5月21日  
国際照葉樹林サミット 2011

国際森林年に当たって、日本最大級の照葉樹林を有するここ綾の地で、「国際照葉樹林サミット」を開催し、人と自然との共存の歴史の源泉である照葉樹林の重要性とその適切な保全・利用について議論しました。

本サミットにおいて、次の点についての再確認を行うとともにこれに関する認識を深めました。

## 照葉樹林の価値と現状

### 1 照葉樹林は多様な生き物が暮らす貴重な森であること

東アジアに連なる照葉樹林は、唯一熱帯から亜熱帯、暖温帯へと続き、冷温帯の落葉広葉樹林等に接する常緑広葉樹林の北限域の森林であり、多様な常緑広葉樹からなる林冠構成や豊富な着生植物、シカやサルなどの大型哺乳類をはじめとする多くの動物相を有するなど生物多様性が豊かな、極めて重要な価値を有する森林です。

### 2 照葉樹林はさまざまな恵みをもたらしてくれたこと

私たち人類は、これまで照葉樹林から食料、水、木材、遺伝資源等の供給、気候、洪水等の調整、保健休養のための空間の提供等の様々な恩恵（生態系サービス）を享受してきました。

### 3 その恵みを活用するために伝統的な文化を育んできたこと

照葉樹林帯においては、森の幸の利用、焼畑農耕による作物栽培、これに伴う食の文化や技術など東アジアの伝統文化の基層を形づくる「照葉樹林文化」が育まれてきました。

### 4 その森が少なくなり危機に瀕していること

かつて東アジアのほぼ全域を覆っていた照葉樹林は、長い年月、過剰な森林利用や農地化等が進められ、現在ではその面積は大幅に縮小し、分断・島化しています。また、地球温暖化やシカの食害や里山林の放置などによる生物多様性の危機といった新たな問題も生じています。

## 未来に向けて進めていくこと

照葉樹林がより良いかたちで次代に引き継がれるよう、私たちは以下を推進していきます。

### 1 照葉樹林の保護と復元

残された貴重な照葉樹林の保護や過剰利用により消失した照葉樹林の復元、シカの食害や里山林の放置などによる生物多様性の危機への対応、環境教育の推進、これらのための研究とその成果の社会還元等を積極的に行っていきます。

### 2 照葉樹林の適切な利用による伝統文化の発展的継承

私たちの豊かな暮らしと照葉樹林の生物多様性の確保、伝統文化の発展的継承、地球温暖化防止の観点から、保全との適切なバランスを図りつつ、照葉樹林、特に里山林を環境資源、バイオマス資源等として適切に持続的に利用していきます。

### 3 市民活動の推進

国、地方自治体、研究機関、自然保護団体、地域住民、企業、NPOなど多様な主体がそれぞれ積極的に活動を進めるとともに連携しながら一体的な活動を推進していきます。

## 宣言

東アジア全体で危機的状況にある照葉樹林の保全を進め伝統的な知恵を将来にわたって発展的に継承し、持続可能な利用を広く推進していきます。また、こうした趣旨に賛同する個人、団体、企業等のネットワークの構築に努めます。